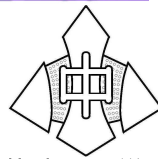


- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年12月22日(水)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

手をたずさえて

“言葉を紡ぐ”～私たちの《生きる》～

2年国語科特別授業を振り返る

創立60周年記念行事として行われる教育講演ライブにおいて、ヴァイオリニスト増田太郎さんと生徒とのコラボレーションに向けての特別授業でした。2年国語科4時間扱いで、伊藤久恵先生と私がタッグを組んでの授業で、谷川俊太郎氏の詩「生きる」を味わい、今かけがえのない自分を生きていることを実感することで、自分の言葉で〈生きていること〉を表現し、最終的には自分たちの詩として“私たちの《生きる》”をつくり上げることになりました。以下、授業の記録です。

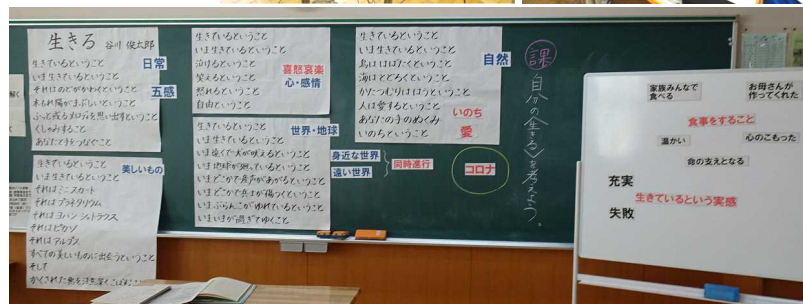
【1時間目】

まず初めに「生きる」をイメージしたマッピングを行った。その後、特別授業を行うことになった経緯や進め方について、増田太郎さんとのかわりから私が説明した。そして、谷川俊太郎氏の詩「生きる」の絵本の読み聞かせを伊藤先生が行った。心にグッとくるエピソードも紹介され、生徒達は食い入るように絵本の世界へと入り込んでいった。その後感想を交換した。授業の最後に、もう一度「生きる」のイメージのマッピングを行った。初めに書いたイメージをさらにふくらませていった。谷川氏の詩は小学校6年生の教材であり、生徒達は一度学習している。しかしながら、中学2年生となった今、2年前とは違い、詩の深い意味を感じることができたようである。



【2時間目】

まず谷川氏の詩「生きる」を味わった。初めに増田太郎氏が作った楽曲(CD)とともに、伊藤先生が読み聞かせを再度行った。そして、ペアになって互いに詩を読み合った。その後、詩の表現の特徴や込められている作者の想いなどを捉える活動を行い、詩の連ごとにテーマを考えた。人間の日常にはたくさんの〈生きている〉場面があり、そのたびに当たり前の喜怒哀楽も生まれる。その当たり前の日々が素敵なこと、幸せなことなんだというイメージが、この詩のいたるところに込められていることが分か



った。次に、生徒達は自分自身が考える《生きる》について付箋に書き出していった。そして、その付箋を見せ合いながら、グループワークを通して意見交流を行った。様々な観点から様々な《生きる》が出された。

【3・4時間目】

グループごとにそれぞれが付箋に書いた自分の《生きる》を、KJ法により仲間分けして、タイトルを付けていく作業を行った。日常、学校生活、学校行事、部活動、喜怒哀楽、自然、世界・環境、家族、コロナなど、様々なタイトルが付けられた。そして、最後の活動として、「生きているということ いま生きているということ それは…」という《詩の型》を提示し、生徒達はその後に続く言葉を書き込んでいき、一人一人が自分自身の詩《生きる》を作った。



【その後の活動】

その後、各クラスの代表生徒が集まり、自分の《生きる》について、クラス毎によいと思う表現を選び、タイトル別に書き出していく作業を行った。たくさんの心に響く言葉が「日常」「友情」「学校生活・部活」「感情・喜怒哀楽」「家族」「世界・地球」「自然」「コロナ」「その他」に分類された。

最終的には、伊藤先生と私とでそれらの言葉を精選し、つなぎ合わせながらひとつの詩のかたちにした。完成した詩には伊藤先生と私の言葉も入っているが、大部分は生徒達の言葉で素敵に彩られた。

11月29日（月）の2学年集会において、2年生全員で作った詩《生きる》がお披露目となった。日常、家族、学校生活、コロナ、感情などの8連からなる一つの言葉に深い意味のこもった詩だ。それを伊藤先生が朗読した。併せて、講演ライブで太郎さんとコラボする群読メンバー6名も発表され、一人一人が抱負を述べた。



12月3日の教育講演ライブでは、2年生全員で作った詩《生きる》が、生徒6名の群読と太郎さんの演奏のコラボにより披露されました。詩《生きる》については、一過性のものにならぬよう、この詩が生まれ、群読された過程とこの詩そのものを今後も大切にしていってほしいと考えます。最後に、特別授業を受けた生徒達の感想を掲載しました。「命」、「日常」、「当たり前のこと」の意味に気づき、「一日一日を大切にしよう」という想いを持った生徒が多かったようです。

特別授業を受けての感想

- ◆ 私たちが何気なく過ごしている日常、出来事にも、いま生きているんだってことを実感できる場面はすごくたくさんあるんだということを知りました。今、生きることはどんなことを考えたり、楽しかったり、うれしかったり、苦しかったりと感じることができるのも、また生きているからできること、生きている証なのだと思います。この授業を通して、改めて生きることについて考えることができました。これからも一日一日を大切に、今を精一杯生きたいと思います。
- ◆ 私はこの授業を通して、命の大切さに気づきました。人は生きている間、人に向けての感情だったり、自分に向けての怒りや苦しさなどがあるけど、ある行動を試してみたり、ある発言をただけで、ぐちゃぐちゃした気持ちパッと晴れたりすることがあると思います。そのうれしさなどが感じられるのは「命」があるからだ！とまた改めて実感することができました。
- ◆ 授業では改めて生きることの大切さについて学べたよい機会だったと思います。私たちが当たり前に行っていることでも、言葉にしてみると、とても壮大で凄いなと感じました。自分と向き合っ考えることができたと思います。今後は、この授業のことを時々思い出しながら、一日一日を大切に過ごしたいと思います。
- ◆ 私は、今まで「生きる」ということをあまり深く考えてきませんでした。ですが、この授業を通して、みんなそれぞれの「生きる」があり、文字にすると、重みを感じられました。感情、部活、学校生活など、いろいろな視点から見た「生きる」には、いろいろな視点での「生きる」があり、とても新鮮に思えました。この4時間の授業は「生きる」についてよく考えることができる良い機会になったと思います。
- ◆ 授業を通して数えきれないほどの生きるがあることが分かりました。いつもの日常があるということ、あたり前があること、大切な人がいることがどんなに幸せなことなのか、生きるの詩を考えながら感じました。校長先生が言っていた「いま ここ じぶん」はとてもいい言葉だなと思いました。いろいろな感情があっこそ生きていることを感じられると思いました。
- ◆ 《生きる》ということには、たくさんのことがあるのだなと思った。部活や学校生活も生きているということの一部なのだわかった。《生きる》ということを考えていくうちに、自分はとても幸せだと思った。たくさんの人に支えられて、生かされているのだと感じた。《生きる》ということは、いいことばかりではないけれど、素敵なこともたくさんあると思った。これからも一日一日を大切に、自分を信じて生きていきたいと思った。